

サイトビジットに 行ってきました。

サイトビジットとは、研究領域の長である研究総括らが、各研究者が拠点として活動している大学や研究施設を訪問することです。チーム型研究でイノベーションの創出を目指す戦略的創造研究推進事業CRESTでは、普通、研究テーマが採択された直後に行います。サイトビジットは、研究者がどのような環境や設備、体制で研究を行っているのか確認するだけでなく、研究総括と研究者が、ひざを交えて話し合うことのできる貴重な機会でもあります。忌憚(きたん)なく意見を交わせるサイトビジットは、大人数が出席する会議にはないメリットがあり、CRESTの領域目標の達成に向けて欠かせないものです。

私が担当しているCREST「ナノシステム創製」領域では、サイトビジットには曽根純一研究総括と私のほかに、領域アドバイザー数人が同行します。まず、研究者から研究計画や現在行っている取り組みについての紹介があり、その後、討論を行い、最後に研究室や設備の見学、というのが一般的な流れです。所要時間は2時間程度ですが、議論が白熱して超過してしまうこともしばしばです。

サイトビジットは研究テーマ採択時だけでなく、研究がスタートしてから3年目、中間評価の前にも行います。この場合、評価を前提にしていますから、議論はより一層熱の入ったものになり、緊張感も感じられるほどです。研究総括や領域アドバイ



イノベーション推進本部
研究領域総合運営部 主査

荒岡 礼 (39) あらおか・あや

●業務の内容

戦略的創造研究推進事業CRESTの研究領域「プロセスインテグレーションによる機能発現ナノシステムの創製」を担当。各研究者の支援や、曽根研究総括から出されるアイデアを形にすることで、研究領域を支える。

●Background

東京工業大学工学部金属工学科卒業。同大学大学院理工学研究科博士課程修了。博士(工学)。同大学助手、物質・材料研究機構研究員などを経てJSTに入社。入社後は一貫してCRESTのナノ材料分野を担当。現在7年目。

ザーからの質問や助言も、より具体的になり、ときには厳しいものにもなります。

先日訪問した、奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科の浦岡行治教授のチームへのサイトビジットでも、曽根研究総括から、まさに具体的な助言がありました。浦岡チームでは、たんぱく質の自己組織化を利用してナノ構造を作成する「バイオナノプロセス」という技術をもとに、メモリなどの電子デバイス、MEMS、バイオセンサといったさまざまなナノデバイスの実現を目指しています。曽根研究総括からの助言は、特に電子デバイス応用について「研究のステップアップには、半導体デバイスの専門家と直接討論して、研究の方向性や可能性について意見をいただくことが有効」というものでした。

この助言を受け、浦岡教授は曽根研究総括とともに、半導体デバイスの企業研究者が集結する研究拠点「超低電圧デバイス技術研究組合(LEAP)」を訪問することになり、私も同行しました。この訪問はとても有意義なもので、「メモリ技術では応用によって要求される特性や仕様が異なってくるので、ねらいを絞ったほうが良い」というコメントや「半導体関係の専門家向けの会議で積極的に発表すべきだ」との励ましの言葉をいただきました。浦岡教授は、今回の訪問結果を参考に、今後の研究展開を行っていくそうです。



(左) 産業技術総合研究所の島チームへのサイトビジットでの討論。(中) LEAPで研究内容の紹介を行う浦岡教授。出席した半導体デバイスの専門家から、さまざまな質問や助言をいただいた。(右) LEAP訪問後の曽根研究総括と浦岡教授。

TEXT: Office 彩蔵